

「脱原発」を考える市民講座・四日市



活動紹介

■活動場所

中部地区市民センター、四日市公害と環境未来館活動室

■活動日、活動頻度等

2011年5月から始めて52回となっていますが、活動は不定期です。

■活動内容など

- ・2016年2月、福島から武藤類子さんを招いて講演会を実施。
- ・2023年8月、「福島原発“処理水”～海洋放出は大丈夫なのか？」と題した講演会を実施。講師は、四日市公害裁判にも尽力された河田昌東さん。
- ・2024年2月、3.11以降、福島から愛知へ避難した岡本早苗さんの講演会「原発事故の被害とは～事故から13年経って被害者が抱える想い」実施。岡本さんは、原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜の原告団団長。
- ・12月の環境フェアで「四日市公害を忘れないようにフクシマも忘れない～311子ども甲状腺がん裁判の現状」を展示。ほとんど報道されませんが、7人の若者が原告として裁判に取り組んでいます。
- ・2025年3月22日、上記岡本さんのこの1年間の活動報告を聞く講演会を実施。
- ・2026年1月、名古屋での武藤類子さん講演会に参加し、講座の取り組みを報告。

代表者の想い

四日市公害の原告側証人としてご尽力された宮本憲一さんの「福島原発事故は史上最悪最大の公害である」(『戦後日本公害史論』)という言葉と共に、四日市公害の歴史と教訓を基にしながら、3.11を忘れずに活動を続けていきたいと思っています。

PR

上記と重なりますが、「四日市公害を忘れないようにフクシマも忘れない」の気持ちを持って、子ども甲状腺がん裁判の動向を注目していきたいと思っています。

関心を持っていただけましたら、HP等をご覧ください。

